

小さな声を 大きな力へ

暮らしにくい・働きにくい・遊びにくい・育てにくい…

さまざまな「〇〇にくい」の声に、ていねいに向き合い、

待つのではなく現地へ行く・会いに行く姿勢で活動してきました。

引き続き、介護従事者でもある議員として、福祉の視点を軸に、
地域と区民と行政をつなぐ役割を果たします。

だれもが頼り合うことができ、“一人ひとり違う能力を活かせる社会”
をつくるために、これからも皆さんと一緒に声をあげていきます。

がんばりすぎなくていい、ひとりぼっちにしない、

ふんばってくれているあなたのために行動し続けます。

1年間の振り返りレポートも3年目となりました。

紙面の都合上、全てを報告はできませんが、

少しでも知っていただければ幸いです。

暮らしの中での
困りごとなど、
お気軽にご相談
ください



@BERIKO.SEKIGUCHI.SETAGAYA
Instagram



関口江利子
公式サイト



Facebook

☎03-3420-0737

世田谷・生活者ネットワークHPからも
お問い合わせいただけます。

自宅にいられる当たり前を守るために 国への意見書が採択されました！

将来、あなたや家族の身体が不自由になったとき、家に来てくれるヘルパー
がいらない—そんな危機が、現実になりつつあります。世田谷では、2025年
までの6年間で約800人の訪問ヘルパーが姿を消しました。国は、介護職
の賃金アップなど抜本的な解決に着手せず、介護サービスを使う人の自己
負担を上げようとしています。これでは、ケアをへらす人が増え、そのツケ
は本人の生活の質の低下や家族の介護負担となって跳ね返ってきます。
介護は、誰もが「介護する人・される人」として直面する「自分ごと」です。
だからこそ、地方議会から動くべきと考え、各会派へ働きかけた結果、「介護
保険制度の持続可能性の確保を求める意見書」が提出され可決、国に対し
意見を出せました。

私は会派として「利用者の負担を増やす
のではなく、国の予算（公費）の割合を増
やし、社会全体で介護の仕組みを支えて
いくべきだ」と訴えました。今後も国への
働きかけを続けます。

議員提出議案第2号
「介護保険制度の持続
可能性の確保を求める
意見書」賛成意見▶



23:40～審議開始
31:05～関口賛成意見

世田谷・生活者ネットワークは
議員2人で活動中！



世田谷区議会議員
関口江利子

世田谷区議会議員
おのみずさ

カンパをお願いします

生活者ネットワークの活動は、カンパと
ボランティアで支えられています。
カンパは1口1,000円から、いくら
でも、いつでも受け付けています。

【ゆうちょ銀行】
世田谷・生活者ネットワー
ク(記号)00110-1-765709
店名)019 当)0765709

※政治資金規正法により政治団体への匿名カンパは禁止されて
います。お振込の際にはご住所・お名前・ご職業を明記いただき、
別途お知らせいただきますよう、よろしくお願い致します。

世田谷区議会議員 せきぐちえりこ 関口江利子

都市整備常任委員/環境・清掃・リサイクル対策等特別委員、介護ヘルパー

広島県呉市生まれ広島市育ち、ヒロシマ被曝2世。家族は夫と娘(高校生)と柴犬。
98年成安造形大学情報デザイン学部卒、上京。就職氷河期にアルバイトから始め
た建築事務所でデザイナーとして従事。08年世田谷区へ転入。14年より介護保
険外の高齢者へ支援ボランティアを始め、生協理事に就任したことをきっかけに食・
環境・地域福祉の課題に取り組む。18年より訪問ヘルパーとして障がい児者・高齢
者・子育て家庭の支援にあたる(現在も継続)。23年世田谷区議会議員初当選。

世田谷・生活者ネットワーク

平和への想い

「せたがや未来の平和館」は、これまでバラバラ
だった名称表記を統一、外観サインを新設する
事ができました。展示内容もリニューアルされ
ましたので、ぜひ世田谷公園へ足を運んでくだ
さい。新しく、区立中学生を広島市へ派遣する
平和学習事業も始まります。議会外ではノーベ
ル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協
議会の田中照巳さんの講演会を開催しました。
二度と戦争を起こしてはいけない強い想いを
継承していきます。



講演会後、田中照巳さんと
リニューアルした平和館▶

アルミ缶水からはじまる 気候危機対策

区内350ヶ所以上にある「お休み処」で配布する飲
料水が、ついに全量ペットボトルからアルミ缶水へ
変わりました。2026年度の数値は9万720本です。
受け取った皆さんが「この水、なんでペットボトル
じゃないんだろう？」から始まる気候危機への意識
チェンジを進めます。給水機の設置も引き続き求め
ていきますので、マイボトルも持ち歩きませんか😊



▲豪徳寺のお休み処にて

3 世田谷・生活者 ネットワーク つのルール

1 議員は交代制
(ローテーション)

2 議員報酬は
市民の政治
活動資金に

3 選挙は
カンパと
ボランティアで

【編集・発行】2026年8月6日
生活者せたがや228号
世田谷・生活者ネットワーク代表／西崎光子

〒154-0017 東京都世田谷区世田谷1-12-14 原ビル2階
TEL: 03-3420-0737 FAX: 03-3706-1744
https://setagaya.seikatsusha.me

関口江利子の 議会質問ふり返り

関口江利子がこの1年で取り組んできた主な議会質問です。アーカイブはQRコードからご覧いただけます▶



ぜひ議会を傍聴に来てください！

【2025年10月/第3回定例会】



子ども

① 子どものケア者(ヤングケアラー)への支援は、福祉部局の連携を強化せよ



障がい

② 放課後等デイサービスなどの開設で適用されるユニバーサルデザイン規格を実態に即した柔軟な仕組みにせよ



③ HPVワクチンを接種した区内の高校生が重篤な副反応を起こしたが、適切な対応を受けられなかったことを重く受け止め、医師・保護者が備えられるようにせよ

【2025年決算特別委員会】



介護

① 介護事業者へ区の独自支援をせよ



環境

② 農地の保全に取り組め

③ 区立公園の人工芝を草地へ見直せ

【2025年11月/第4回定例会】



住民自治

① 用賀にできる清掃・環境などの複合施設は、地域住民の意見を聞き、参加型・環境配慮型とせよ



② 災害時の対応や高齢者・障がい者へのごみ収集など、地域を把握している区の直営職員の人材確保を進めよ

③ 終活支援センターのサービスに、金銭管理と退院支援を追加せよ

【2026年2月/第1回定例会】



① 法律制定にともなう高次脳機能障害者(児)支援を、都に先んじて始めよ



② 介護保険と障害福祉サービスを組み合わせた「併用プラン」が作成できるケアマネージャーを育成せよ



防災

③ 子どもによる心理的暴力から教員を守れ

④ 震災時の膨大なし尿ごみの収集計画を実効性あるものにせよ

【2026年予算特別委員会】



① 障がいのある区職員の定着率を上げるために職場環境を向上させよ



② 障がい者の選挙情報アクセスを保障せよ



③ 震災時に水洗トイレの使用を再開するタイミングと方法を周知せよ



④ 人工芝から発生するマイクロプラスチックの子どもへの影響を考慮せよ



⑤ 子どもの高次脳障害の実態を把握せよ



⑥ 読書の助けとなるリーディングトラッカーなどを学校図書館へ配備せよ

【2026年6月/第2回定例会】



① 風致地区のみどりを守れ



② 高齢者や障がい者の自宅玄関先でゴミを収集するサービスは自立生活に欠かせない。要介護2に限定は厳しすぎるため緩和せよ



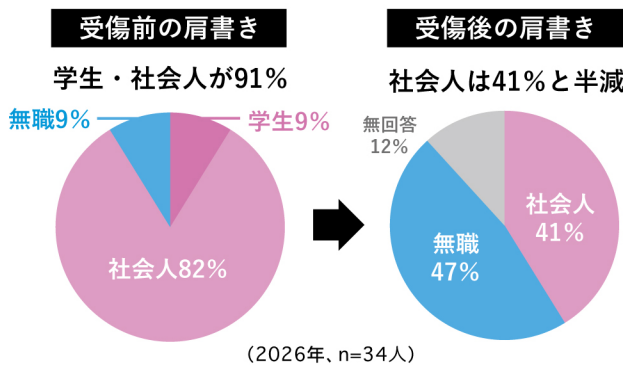
障がい

高次脳機能障害をされていますか？



病気や事故などで脳が大きく傷つくと、外見からは分かりにくい記憶・言語・注意障がいなどが起こることがあります。多くの方がまだ若いため、障がいと向き合いながらイキイキと生活していけるよう、**中長期的な支援が必要**です。また、一見人が変わってしまったように感じることもあるため、**家族への支援も大切**です。2026年4月、「高次脳機能障害者支援法」が施行しました。高次脳機能障害があっても、自分らしく生きる権利が守られ、切れ目ない支援が行われるよう定めています。**法律の下、まず、都道府県が具体施策を示すことになっていますが、これをつつことなく早く動くことを求め、区は「支援における基本的な考え方」の策定に着手しました。**子どもの場合、クラスメイトの名前がわからなくなったり、場にそぐわない言動をしたりして、いじめや不登校のリスクが高くなります。また、受験や就職活動でカベにぶつかりやすいため切れ目ない学校生活のサポートが重要です。ニーズ調査や復学・復職支援、職員・教員の障害理解の推進、相談体制の強化などやるべきことは多く、引き続き取り組んでいきます。

世田谷区内当事者のグループによるアンケートより



現役世代の受傷が多いが、復職できた人は少ない。当事者の社会参加への意欲を支援する必要がある

世田谷区立保健センターにおける高次脳機能障害者の支援について▼



“世田谷で支える”高次脳機能障害パンフレット▶



防災

支え合える防災へ

世田谷区では、「多様性に配慮した女性の視点」からの防災対策として、**せたがや女性防災コーディネーター**(せたがやJBC)を養成しています。高齢者や障がい者、外国人、乳幼児、妊産婦、性的マイノリティなど多様な方々に配慮した対応ができるよう周知啓発を進め、一人ひとりが防災時に備えられるようにすることを目的としています。私は、せたがやJBC 2期生として、地域の小学校の避難所運営委員を担っています。ここでの経験から、**多様な配慮について知見を持つせたがやJBCが、地域の避難所運営委員会に入っていくことは重要だと提案しました。**これから、まちづくりセンターを通じてせたがやJBCが関わりを深めていく予定です。

大規模な地震が起きた時、排水管の安全が確認できるまでトイレの使用はできません。特にマンションは、隣近所と排水管がつながっているため、どこかで破損していると汚物が排水溝から溢れ出てしまいます。下水管の安全確認のためのマニュアルづくりなど、区からの周知徹底を求めました。また、**トイレ再開までに簡易トイレから発生するし尿ごみは、3時間で156トンにもなる可能性**があります(能登半島地震アンケートより試算)。**現在の区計画では、ごみの収集は2週間後から始まります。**福祉的な視点も含めた清掃職員の適切な人数配置はできるのか、区民生活に寄り添った行動計画の作成など強く求めています。



△地域の防災フェアにて。「無事です」カードを作成している町会もあります。



環境

みどり豊かな住環境をまもろう

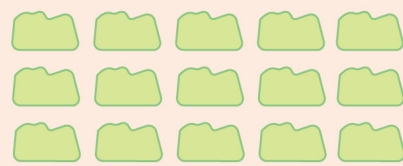


60年前と比べて、世田谷区の農地は約8分の1に減ってしまっています。**農地やみどりは、木陰をつくり雨水を地面に戻すなど、気候危機対策に効果的なだけでなく、みどりや畑から地域コミュニティを醸成し豊かな住環境を生み出します。**農地の保全のための補助制度の拡充や「せたがやそだち」のブランディングを求めてきました。農福連携や援農など、農に触れたい区民ニーズとのマッチングも必要です。

一方で、区立公園や公共施設、学校校庭などに人工芝の導入が進んでおり、気候危機対策の効果がないだけでなく、磨耗して出るマイクロプラスチックが水や空気を汚します。**プラスチックの問題点は、自然分解に数百年単位で時間がかかることです。**人の肺からは、吸い込んだマイクロプラスチックが必ず出てくる調査研究結果も出ています。健康被害との因果関係はまだ確立していませんが、特に子どもが利用する場所での人工芝は避けるべきです。公園の人工芝を草地へ戻すことも提案しています。

世田谷区の農地面積の変化

1965年 586万7,100㎡
砵公園15個分



2026年 72万1,300㎡
砵公園1.8個分

